

2026年度
岩手県支部年次大会
報告書(案)

日時 2026年7月4日(土) 14時40分

場所 プラザおでって

盛岡市中ノ橋通1-1-10

TEL 019-604-3300

公益社団法人日本技術士会東北本部
岩手県支部

次 第

1. 開 会
2. 支部長挨拶
3. 会議成立報告
4. 議長選出
5. 議事及び報告
6. 閉 会

2026年度 年次大会 報告及び議案事項

報告及び議案事項 1

2025年度事業報告及び収支決算並びに監査報告について

報告及び議案事項 2

2026年度事業計画及び収支予算について

以上の議案を提出します。

2026年7月4日

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部

支部長 菅原 常彦

2025 年度岩手県支部事業報告書

[2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日]

■ 2025 年度の活動概要

2025 年度は、2 つの研究会が休会等により減少することとなりましたが、会員の皆様の創意工夫とご協力により従来と変わらぬ活発な支部活動を行うことができました。

活動の概要を、以下に報告します。

1. 年次大会

2025 年 7 月 5 日（土）に支部会員 41 名の本人出席により開催し、議案事項は事務局提案のとおり承認されました。大会後には恒例の記念講演を開催しました。

2. 役員会

前年度と同様に隔月で計 6 回開催し、また、2025 年度年次大会により設立が承認された「産学官と技術士との合同セミナー」実行委員会を同時開催し、役員会と実行委員会が一体となり活動を進めてきました。

3. 講演会

講演会は、年次大会時のほか、秋季、新春の計 3 回開催しました。また、2023 年度から実施しているユーチューブ視聴も継続し実施しました。さらに秋季と新春講演会では、技術委員会による倫理研修会を併せて開催し、会員の技術力向上と技術者倫理向上に努めました。

4. 研究会活動

支部に 9 ある研究会のうち 7 の研究会が現場研修やオンラインでの勉強会などを開催しました。各研究会がそれぞれに工夫しながら、積極的な活動が展開されました。

5. いわてまるごと科学・情報館

毎年恒例となっていた岩手県主催の「いわてまるごと科学・情報館」が再開 4 年目の開催となり、支部活動のパネル展示および協賛企業による展示・体験コーナーへの出展を行いました。

6. 「産学官と技術士との合同セミナー」実行委員会

2026 年 11 月 27 日（金）開催の「産学官と技術士との合同セミナー」の実行委員会を毎月開催し、準備を進めました。

会員の皆様によりますこれらの活動によって、社会・地域へのより一層の貢献など支部の活動理念を実践することができた 1 年でした。

I. 一般事業

1. 委員会・研究会活動

1-1 委員会活動

(1) 役員会の開催（役員会）→詳細はP.10「2. 役員会」にて記述

岩手県支部の規則に則り年間 6 回の役員会を計画し、支部活動に関する協議を開催した。

(2) 年次大会の開催（総務委員会）

岩手県支部の 2024 年度活動、決算報告、2025 年度の活動、予算計画の報告を行った。(2025 年 7 月 5 日)

(3) 技術士名簿の発行（総務委員会）

前年度と同様に Excel データによる岩手県支部及びいわて技術フォーラムの技術士名簿を作成し、会員に配布した。(2025 年 6 月)

(4) 広報活動（広報委員会）

① 東北本部「ガイアパラダイム」への寄稿を行った。

第 81 号 (2025.07) :

- 岩手県支部 2024 年度後期活動報告 (利部 哲 氏)

第 82 号 (2026.01) :

- 「大船渡市大規模林野火災に携わって」 (吉田 宏 氏)
- 各県支部長年頭の挨拶 「新年のご挨拶」 (菅原 常彦 氏)
- 岩手県支部 2025 年度前期活動報告 (利部 哲 氏)



(5) 講演会開催（企画委員会）→ 秋季・新春講演会の詳細は別紙「事業報告」にて記述

- 2025. 7. 5 於：プラザおでって 参加人数：40名（会員限定）
～シリーズ岩手を知る（第33回）～
「いわては美味しい百貨店～県産品の販売から～」
- 2025. 10. 4 於：エスポワールいわて 参加人数：38名（内WEB配信視聴5名）
～シリーズ岩手を知る（第34回）～
「岩手県八幡平市での地熱資源開発を巡る現状等について」
～JOGMECによる地熱資源開発促進事業の取り組み～
- 2026. 1. 24 於：エスポワールいわて 参加人数：53名（内YouTube 配信視聴6名）
～シリーズ岩手を知る（第35回）～
「北上川五大ダムと一関遊水地」

公益社団法人日本技術士会 東北本部 岩手県支部
2025年度 講演会 ～シリーズ岩手を知る 第33回～

いわては美味しい百貨店
～県産品の販売から～

講師 岩手県産株式会社 商品部 企画開発課 シニアマネージャー **長澤 由美子氏**
昭和48年 岩手県産株式会社 入社
平成17年 いわて産品
平成19年 岩手県産株式会社 企画開発課 企画課長 担当

平成17年 いわて産品プラザ企画
令和1年 商品部 企画開発課 シニアマネージャー
岩手県 岩手プロフェッショナルアドバイザー担当

日時 2025.7.5 SAT 15:00～16:30

会場 プラザおでって 3階 大会議室

主催：公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 協賛：いわて技術フォーラム

公益社団法人日本技術士会 東北本部 岩手県支部
2025年 秋季講演会 ～シリーズ岩手を知る 第34回～

岩手県八幡平市での地熱資源開発を巡る現状等について
～JOGMECによる地熱資源開発促進事業の取り組み～

講師 独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構 なかむら ひでかつ 地熱事業部長 中村 英克氏

講師プロフィール
平成5年 岩手大学大学院工学研究科資源開発工学専攻 修士課程修了
同年 金属鉱物資源機構 地熱事業部長、金属生産技術、鉱業防止技術等の各部門を歴任し、現在に至る

日時 2025.10.4 SAT 15:15～16:45

会場 エスポワールいわて 3階 特別ホール

●主催：公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
●協賛：岩手県産株式会社、公益社団法人 岩手県産品センター、一般社団法人 岩手県産品振興会、岩手県産品工業振興会（協賛）
●協賛：エスポワールいわて、公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 〒930-0122 岩手県盛岡市大町1-4-20（エスポワールいわて）
●お問い合わせ先：公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 〒930-0122 岩手県盛岡市大町1-4-20（エスポワールいわて）
TEL:019-642-8890 E-mail:mta@mta.or.jp

※本誌に掲載の情報は掲載時点の正確な情報であることを保証いたしません。最新情報は掲載内容に準じて掲載される場合があります。公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部

公益社団法人日本技術士会 東北本部 岩手県支部
2026年新春講演会 ～シリーズ岩手を知る 第35回～

北上川五大ダムと一関遊水地

講師 一般社団法人 東北地域づくり協会 さとう 伸吾氏 専務理事 佐藤 伸吾氏
講師プロフィール：昭和54年4月 建設省東北地方建設局入籍、主任河川事業に従事、現在に至る

日時 2026.1.24 SAT 15:15～16:45

会場 エスポワールいわて 1階 イベントホール

●主催：公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
●協賛：岩手県産株式会社、公益社団法人 岩手県産品センター、一般社団法人 岩手県産品振興会、岩手県産品工業振興会（協賛）
●協賛：エスポワールいわて、公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 〒930-0122 岩手県盛岡市大町1-4-20（エスポワールいわて）
TEL:019-642-8890 E-mail:mta@mta.or.jp

※本誌に掲載の情報は掲載時点の正確な情報であることを保証いたしません。最新情報は掲載内容に準じて掲載される場合があります。公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部

(6) いわてまるごと科学館への出展の参加（企画委員会）

→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述

■ 2025. 11. 29 於：いわて県民情報交流センター アイーナ
全体 840 名

今年度は協賛団体として昨年度に引き続き（株）タカヤ様と（株）タックエンジニアリング様から出展のご協力をいただきました。

次のとおりブースを出展しました(写真1)。

(1) 株式会社タックエンジニアリング様

- ・ PC を用いた UAV 操縦シミュレーション
- ・ 専用ゴーグルによる UAV 撮影動画の VR 体験他

(2) 株式会社タカヤ様の出展内容

- ・ 重機シミュレーターによる操作体験
- ・ 大型モニターでの現場撮影映像の放映

今後も引き続き地域に密着した活動の続け、地域経済・産業の発展、福祉の増進への寄与を続けていきたいと考えています。



写真 1：ブース出展の様子

(7) 技術部門別の研究活動全般の統括や技術士倫理に関する活動（技術委員会）

→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述

■ 2025. 10. 4 於：エスポワールいわて 参加人数：29 名

- 講演 「職場のメンタルヘルスとコミュニケーション」

■ 2026. 1. 24 於：エスポワールいわて参加人数：21 名

- 講演「公務員・建設業のそれぞれの立場を経験して感じたこと」
- グループディスカッション
「DXとAIの現状と課題について」

(8) 本部との連携による技術部門別の研究に関する活動

■ 2025年度 衛生工学・環境・上下水道部会合同見学会

『再生可能エネルギー有効活用の見学会・岩手を訪ね2』

1. 日時 令和7(2025)年10月16日(木) 10:00~17:30
(盛岡駅現地集合・現地解散)

2. 主催 (公社)日本技術士会東北本部岩手県支部
(公社)日本技術士会東北本部衛生工学・環境・上下水道部会

1-2 研究会活動

各研究会等において次の事業が行われた。

研究会名	事業名	実施月日	実施場所	事業内容, テーマ等	参加人数
道 路	現場見学会	2025.12.12	宮古市 曇目地区	宮古盛岡横断道路田鎖曇目 道路に係る現場研修	19名 ※
河 川	現場研修会	2025.9.26	盛岡市 滝沢市	- 県内の主な治水対策に関 する現地研修 ・国土交通省：四十四田ダム (嵩上げ計画) ・県盛岡広域振興局土木部 松川河川改修 (ICT 施 工)、木賊川遊水地 (自然環 境配慮)	15名
農 業	現地研修会	2025.10.29	花巻市 奥州市	県内の主な農業農村整備事 業等に関する現地研修	26名
森林・水産	講演会	2025.4.16	盛岡市 北ホテル	「ツキノワグマの生態と被 害防除 -盛岡市のある集落 ぐるみの取り組み-」 講師：国立大学法人 岩手 大学 名誉教授 青井俊樹氏	17名
	現地研修会	2025.10.10	釜石市～ 大船渡市	釜石市 岩手県水産技術セ ンター見学 大船渡市大船渡林野火災 現場	17名
応用理学	野外見学会	2025.10.8	久慈市大川 目、侍浜町 野田村野田 玉川ほか	応用理学に関連する見学会 三陸北部でのジオポイントの 観察(久慈市大川目モリブデン鉱 床、洋野町侍浜海水プール、久慈 赤浜展望台マイクロナイト、玉川 海岸久慈層群(琥珀)) 講師：越谷 信氏	21名
鋼構造 コンクリート	現場研修会	2025.12.12	八幡平市 佐比内地内	・補修・補強現場見学 ・新設橋梁現場見学	19名 ※
建設 ICT 生 産システム	AI 利用研修会	2026.3.2	盛岡市 エスポワール いわて	AI の効果的な活用と発展 可能性	19名 ※

※ 道路、鋼構造・コンクリート研究会の2部会による合同研修会の延べ人数

2. 広報及び普及啓発事業

広く社会に技術士制度の普及啓発を図るとともに、技術士活用の促進、CPD 実施の促進及び支援のための情報提供など、技術士活動の活性化を図るための、以下の事業を行った。

(1) 広報

- ① ホームページ，Eメールを活用した会員への情報提供，一般社会への PR
- ② 会員名簿の作成，配布
- ③ 東北支部「ガイアパラダイム」、公益社団法人日本技術士会「技術士」への寄稿

(2) 普及啓発

- ① 会員及び協賛企業及び団体の拡大に向けた活動

3. 技術士の資質の維持・向上のためのCPD活動

技術士の資質の維持・向上を目的として、技術講演会ならびに研究会活動など、CPD 活動を行った。

(1) 研修会の開催

下記の通り技術委員会による前年度から始めた倫理研修会において会員への参加を呼びかけ、研修会を開催した。

- ① 2025. 10. 4 「職場のメンタルヘルスとコミュニケーション」
- ② 2026. 1. 24 「技術士倫理綱領を踏まえたこれからの技術士のあり方について」

(2) 研究会活動

会員へ参加を呼びかけ「1. 委員会・研究会活動」に示すとおり開催した。

4. 社会貢献活動

(1) 講演会の開催

下記の講演会において市民へ参加を呼びかけ、Web 配信も行いながら多くの方々に参加いただけるように開催を行った。

- ① 2025. 10. 4 「岩手県八幡平市での地熱資源開発を巡る現状等について」
～JOGMEC による地熱資源開発促進事業の取り組み～
- ② 2026. 1. 24 「北上川五大ダムと一関遊水地」について

(2) いわてまるごと科学館への出展（於：いわて県民情報交流センターアイーナ）

- ・ PC を用いた UAV 操縦シミュレーション
- ・ 専用ゴーグルによる UAV 撮影動画の VR 体験他
- ・ 重機シミュレーターによる操作体験
- ・ 大型モニターでの現場撮影映像の放映

協賛団体である
(株)タックエンジニアリング様,
(株)タカヤ様によるブース出展

支部から 2 名参加

5. 東北本部活動への参加

東北本部との連携によって、本会の円滑な運営を図るために、以下の活動に参加した。

- (1) 役員会への参加 (Web&対面)
- (2) 東北本部機関誌「ガイアパラダイム」への寄稿

6. 「第 52 回地域産学官と技術士との合同セミナー」実行委員会の開催

2026 年 11 月開催のセミナーに向けた実行委員会の設立と実行委員会の開催を行った

- (1) 実行委員会の設立

2025 年 7 月 5 日年次大会で実行委員会の設立が承認された

- (2) 実行委員会の開催（役員会）→詳細は P. 10「2. 役員会」にて記述
実行委員会の決定に基づき月 1 回の実行委員会を計画し、セミナー開催に関する協議を行った。

II. 会議の記録

1. 合同年次大会

公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部 2025 年度年次大会

概要： 報告及び議案事項 1 2024 年度事業報告及び収支決算並びに監査報告について
報告及び議案事項 2 岩手県支部長及び役員について
報告及び議案事項 3 2025 年度事業計画及び収支予算について
報告及び議案事項 4 「第 52 回地域産学官と技術士との合同セミナー」
実行委員会設立
について

議案事項 1～4 とともに承認される。

その他意見等； なし

2. 役員会

開催日	役員会	主要議題
2025.6.2	第1回役員会	<ul style="list-style-type: none"> 2025年度第1回東北本部役員会報告 技術フォーラム代表幹事選挙状況について いわてまるごと科学館について 新役員体制について 2026年度岩手県支部開催「地域産学官と技術士合同セミナー」について 合同年次大会の議案承認 合同年次大会懇親会について 各研究会の活動報告、ならびに活動予定
2025.8.4	第2回役員会	<ul style="list-style-type: none"> 2025年度第2回東北本部役員会・試験担当者会議および年次大会報告 秋季講演会について 第2回倫理研修会について いわてまるごと科学館について 今後の役員会の開催方法について 各研究会の活動報告、ならびに活動予定
2025.9.26	第3回役員会	<ul style="list-style-type: none"> 2025年度第3回東北本部総務委員会報告 いわてまるごと科学・情報館について 秋季講演会及び新春講演会について 第2回倫理研修会について 第3回倫理研修会について 岩手県支部特別顧問及び参与の設置について 各研究会の活動報告、活動予定について
2025.11.28	第4回役員会	<ul style="list-style-type: none"> 2025年度第3回東北本部役員会報告 いわてまるごと科学・情報館開催報告 新春講演会について 第3回倫理研修会について 会長表彰推薦について 研究会の活動報告、ならびに活動予定
2026.2.2	第5回役員会	<ul style="list-style-type: none"> 2025年度新春講演会開催報告について 2025年度第4回東北本部役員会報告 2026年度岩手県支部事業計画および予算案について 2026年度事業スケジュールについて 各研究会の活動報告、活動予定について
2026.3.27	第6回役員会	<ul style="list-style-type: none"> 2026年度合同年次大会(7/4)に向けた準備について 2026年度東北本部長表彰等候補者の推薦について 来年度の事業計画について 各研究会の活動報告、活動予定について 来年度の役員会開催方式について

3. 合同セミナー実行委員会

開催日	実行委員会	主要議題
2025.8.4	第1回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行委員会組織について ・ 当面のスケジュールについて ・ テーマについて
2025.8.29	第2回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域産学官と技術士との合同セミナー」の概要について ・ 今後の実行委員会の運営等について ・ 場所、開催日について ・ テーマについて ・ その他
2025.9.26	第3回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマについて ・ 実行予算案について ・ これからの工程について ・ その他
2025.10.31	第4回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ、講演会内容等について ・ 今後の工程について ・ その他
2025.11.28	第5回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ、講演会内容等について ・ 今後の工程について ・ その他
2025.12.19	第6回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演者の対応について ・ テーマ、等について ・ その他
2026.2.2	第7回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演者依頼状況について ・ テーマ、等について ・ 協賛募集について ・ これからの工程について ・ その他
2026.2.27	第8回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演題目の講演者からの確認状況について ・ 各委員会のスケジュールについて ・ 協賛企業への対応について ・ その他
2026.3.27	第9回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ セミナーに係る知事、県幹部職員との調整について ・ 各委員会のスケジュールおよび予算について ・ 協賛企業等への対応状況について ・ 講演題目の講演者からの確認状況について ・ その他
2026.4.30	第10回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後援団体・講演者への対応等について ・ 今後のスケジュール管理等について ・ Web配信方法について ・ セミナー関連経費の管理等について ・ その他
2026.5.29	第11回実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後援団体・講演者への対応等について ・ 今後のスケジュール管理等について ・ Web配信方法について ・ 協賛企業の取扱い等について ・ その他

III. 会員の動向

1. 岩手県支部

令和8年5月時点の会員の動向及び構成は以下の通りである。

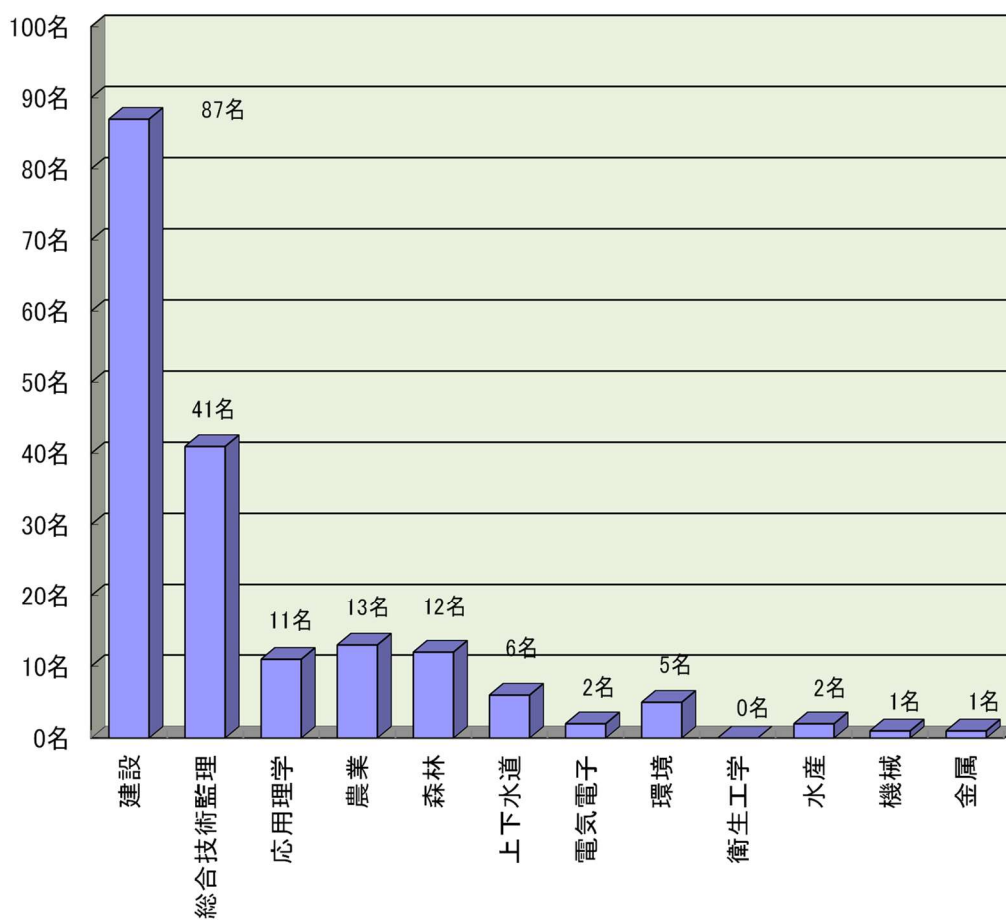
【会 員】 127名（実数）：前年度会員数 124名

【準 会 員】 9名（実数）：前年度会員数 9名

【賛助会員】 8社：前年度会員数 8社

下のグラフに示された各部門の人数は複数部門をカウントした数値になっているので実数と整合しない

岩手県支部会員の部門別状況



※※※※※※※※※※※※※※※※※※

決算報告書

※※※※※※※※※※※※※※※※※※

第 20 期

自 2025 年 4 月 1 日

至 2026 年 3 月 31 日

統合会計（地域組織）

一般会計

岩手県支部

貸借対照表

2026年 3月31日現在

統合会計（地域組織）
一般会計

岩手県支部
(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	678,287	965,538	△ 287,251
普通預金	678,287	965,538	△ 287,251
未収金	260,000	0	260,000
流動資産合計	938,287	965,538	△ 27,251
資産合計	938,287	965,538	△ 27,251
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	938,287	965,538	△ 27,251
正味財産合計	938,287	965,538	△ 27,251
負債及び正味財産合計	938,287	965,538	△ 27,251

収支計算書

2025年 4月 1日から2026年 3月31日まで

統合会計（地域組織）
一般会計

岩手県支部
(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
事業収入	[0]	[40,000]	[△ 40,000]
自主事業収入	(0)	(40,000)	(△ 40,000)
参加費収入	0	40,000	△ 40,000
地域組織収入	[671,000]	[635,000]	[36,000]
地域組織活動費収入	411,000	375,000	36,000
地域組織活動補助費収入	(260,000)	(260,000)	(0)
講演会・見学会開催補助費収入	260,000	260,000	0
雑収入	[130,000]	[121,259]	[8,741]
受取利息	0	1,259	△ 1,259
雑収入	50,000	40,000	10,000
協賛金収入	80,000	80,000	0
事業活動収入計	801,000	796,259	4,741
2. 事業活動支出			
事業費支出	[580,000]	[823,510]	[△ 243,510]
事業広報費	(60,000)	(55,308)	(4,692)
会誌郵送費	10,000	0	10,000
インターネット運用費	50,000	38,808	11,192
その他の広報活動費	0	16,500	△ 16,500
研鑽費	(300,000)	(453,767)	(△ 153,767)
講演会・見学会開催費	300,000	453,767	△ 153,767
業務推進費	(220,000)	(314,435)	(△ 94,435)
賃金	0	10,000	△ 10,000
会議費	60,000	94,291	△ 34,291
旅費交通費	50,000	23,490	26,510
通信運搬費	0	43,075	△ 43,075
消耗品費	0	6,799	△ 6,799
各種会合費	0	42,000	△ 42,000
事務所賃借料	80,000	80,000	0
賃借料	20,000	0	20,000
雑費その他	10,000	14,780	△ 4,780
事業活動支出計	580,000	823,510	△ 243,510
事業活動収支差額	221,000	△ 27,251	248,251
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0

科 目	予算額	決算額	差 異
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	0		0
当期収支差額	221,000	△ 27,251	248,251
前期繰越収支差額	951,000	965,538	△ 14,538
次期繰越収支差額	1,172,000	938,287	233,713

財産目録

2026年 3月31日現在

統合会計（地域組織）
一般会計

岩手県支部
（単位：円）

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
預金	普通預金		678,287
	岩手/岩手銀行		678,287
未収金			260,000
流動資産合計			938,287
資産合計			938,287
正味財産			938,287

監査報告書

令和 8 年 5 月 14 日

公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部

支部長 菅原 常彦 様

会計幹事

川野 好宏



会計幹事

古山 裕康



公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部 規則第 41 条に基づき、令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までの令和 7 年度の監査を行ったので、その結果について報告する。

1. 監査の方法の概要


会計監査のため、会計に関する書類を閲覧し、計算書類についての照合その他相当な方法を用いて調査した。

2. 監査結果の意見

収支決算書は、収支の状況を適正に表示しているものと認める。

以上

事業報告

活動名	2025年 秋季講演会 ～シリーズ 岩手を知る（第34回）～ 岩手県八幡平市での地熱資源開発を巡る現状等について ～ JOGMEC による地熱資源開発促進事業の取り組み ～ （CPD 番号 7-5）
主催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部
日時	2025年10月4日（土） 15:15～16:45
場所	エスポワールいわて 3階特別ホール（盛岡市中央通一丁目1-38）
参加人数等	会場 33名（会員 28名、一般 5名）、WEB 配信聴講 5名、合計 38名
活動内容	
<p>2025年秋期講演会は、岩手県八幡平市での地熱資源開発を巡る現状等をテーマに開催した。独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（以下、JOGMEC）の地熱事業部長である中村英克氏を講師として招き、ご講演を頂いた。ご講演では、地熱発電の特徴や発電方式、国内の現状、次世代地熱発電技術、地域活用事例、国の政策、JOGMEC の支援策などを紹介して頂いた。最後に、質疑応答と10月20日開催の『地熱シンポジウム in 岩手』の案内が行われた。</p>	
<p>1 講演の主な内容</p> <p>(1) 地熱発電の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設備利用率が高く、長時間安定的な発電が可能 ・ 日本は世界有数の地熱資源保有国で、CO₂ 排出はほぼゼロ ・ 発電以外に温泉・農業などへの直接利用が可能 <p>(2) 発電の仕組みと方式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地下深部（約 2000m）の地熱貯留層から蒸気を取り出し発電 ・ 蒸気発電、フラッシュ発電、バイナリー発電の 3 方式を紹介 <p>(3) 日本の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資源量は 2,347 万 kW だが、全国の地熱発電所設備容量は約 65 万 kW にとどまる ・ 課題は、掘削成功率の低さ、高コスト、長いリードタイム、地元理解、環境規制など <p>(4) 次世代型地熱発電技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クローズドループ方式、EGS 方式、超臨界地熱発電などを紹介 <p>(5) 八幡平市の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内に 4 箇所の地熱発電所。ホテル、病院、農業用ハウス等、約 700 カ所以上に給湯 ・ 地熱を活用した地域活性化（菌床栽培、バジル栽培、地域新電力会社設立） <p>(6) 国の政策と JOGMEC の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国は電源構成に占める再エネ比率を 2040 年度に 4～5 割程度とする見通しを公表 ・ JOGMEC は国の「地熱開発加速化パッケージ」のもと、助成金・技術支援等を実施 	<p style="text-align: center;">写真 講演中の中村氏</p> 
<p>2 質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の地熱開発状況について質問があり、2019年現在、世界 29 カ国で約 1 万 5000MW が稼働し、毎年約 400MW 増加、トルコなど非火山国でもバイナリー発電が進展していることが説明されました。日本は資源量世界 3 位ながら設備容量は 10 位にとどまることが指摘されました。JOGMEC は国内の地熱資源開発に活用するため、海外の地熱探査技術を獲得する支援を行っていることも説明されました。 ・ 岩手大学 齋藤徳美名誉教授から、地熱開発に対する国策としての長期的な支援の必要性について意見が出されました。齋藤氏は 1970 年代に岩手大学に赴任した当時、地熱開発は将来性があると期待されていたが、2000 年頃から国の支援が減少したことを残念に思うと述べました。エネルギー自給率が低い日本にとって、地熱は重要な国産エネルギー資源であり、政権交代に左右されない長期的な国策として支援すべきだと主張しました。 <p style="text-align: right;">（文責 佐藤 充弘）</p>	

事業報告

活動名	2026年 新春講演会 ～シリーズ 岩手を知る（第35回）～ 「北上川五大ダムと一関遊水地」について (CPD 番号 7-12)
主催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部
日時	2026年1月24日（土） 15:15～16:45
場所	エスポワールいわて 1階イベントホール（盛岡市中央通一丁目1-38）
参加人数等	会場 47名（会員 30名、一般 17名）、WEB 配信聴講 6名、合計 53名
活動内容	
<p>2026年新春講演会は、「北上川五大ダムと一関遊水地」をテーマに開催した。一般社団法人東北地域づくり協会 専務理事である佐藤伸吾氏を講師として招き、ご講演を頂いた。</p> <p>ご講演では、北上川五大ダムの歴史や技術、治水効果に加え、建設が地域の合意形成や技術革新を促し、岩手県の治水安全度の向上と産業発展に大きく貢献したことを中心にご紹介いただいた。</p>	
<p>1 講演の主な内容</p> <p>(1) 北上川の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北上川は全長 249km（全国第 5 位）、流域面積 10,150km²（全国第 4 位）を誇る東北最大の河川である。 ・ 岩手・宮城県境付近には狭窄部が約 28km にわたって続き、一関・平泉地区は洪水の常習地帯となってきた。 ・ 奥羽山脈と北上山地に挟まれた地質構造が洪水特性に影響 ・ 明治 43 年洪水、カスリン台風（昭和 22 年）、アイオン台風（昭和 23 年）などで甚大な被害を経験 <p>これらの歴史的被害が、後に五大ダムおよび上流改修計画の必要性を高める要因となった。</p> <p>(2) 北上川五大ダムの特徴</p> <p>ア 五大ダムの位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手県側流域 7,800km²のうち、五大ダムの集水面積は約 3,340km²（43%） ・ 有効貯水量総計：約 4 億 m³ → その 7 割以上が治水目的 <p>イ 各ダムの概要</p> <p>(ア) 田瀬ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国初の直轄重力式コンクリートダムで、昭和 16 年に着工 ・ 海軍による人造ガソリン工場計画の発電目的を併せ持っていた。 ・ 国内初の高圧放流設備を導入 <p>(イ) 石淵ダム（のちの胆沢ダム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国初のロックフィルダム ・ 終戦直後の食糧増産政策の下で建設 ・ 外国文献を翻訳しながらの施工、我が国のロックフィルダムの技術確立に貢献 <p>(ウ) 湯田ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水没戸数約 600 戸、移転約 3,200 人という当時のダム事業では全国最大級の補償事例 ・ 圧着式オリフィスゲート、フリップバケットなど革新的技術を採用 <p>(エ) 四十四田ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内初の重力式コンクリート+アースフィル複合ダム（50m 超級） ・ 軟弱地盤対策として巨大レジスティングブロックなど多くの技術を採用 <p>(オ) 御所ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロックフィルとの複合構造 ・ 「御所ダム方式」と呼ばれる水源地整備手法が全国のモデルになる。 ・ 水源地域対策特別措置法（昭和 48 年）制定の先鞭となる役割を果たした。 	

事業報告

(3) 一関遊水地の整備

- ・ 昭和 47 年事業着手
- ・ 全国 3 番目の規模を持つ遊水地（約 1,450ha）
- ・ 遊水地では北上川の基本高水流量 13,600 m³/s のうち、2,300m³/s をカット
- ・ 北上川において、五大ダムと並ぶ重要な治水施設

さらに、遺跡保全のために堤防・流路が変更され、平泉の世界遺産登録にも寄与した点が紹介された。

(4) 上流改修計画と歴史的背景

- ・ 昭和 16 年「北上川上流改修計画」が策定 → 大河川では我が国初の水系一貫の治水計画
- ・ 物部長穂博士の「河水統制」思想（貯水による治水・利水融合）を取り入れた。
- ・ カスリン・アイオン両台風の被害を受け、昭和 24 年に大幅改定

(5) 北上特定地域総合開発計画（KVA）

- ・ 昭和 28 年、全国第 1 号として閣議決定。
- ・ 当時の岩手県は人口密度 85 人、死亡率全国 1 位、所得全国ワースト 3 位、無電灯 28,000 戸など厳しい状況にあった。
- ・ 五大ダム建設を基幹事業とし、農業・工業・電力インフラを一体的に整備。
- ・ 「岩手の TVA」と呼ばれ、全国の総合開発計画に先駆けた。

(6) 地域との合意形成：湯田ダム・御所ダム

ア 湯田ダム

- ・ 大規模補償に対し「地権者会」による合議制を導入
- ・ 東北開発研究会が集団移転や生活補償などについて提言、後のダム補償の指針となる。
- ・ 岩手県は「湯田ダム水没者更生対策要綱」を策定
- ・ ダム建設で恩恵を受ける下流自治体が職業斡旋など協力 → 2 年 9 ヶ月で合意形成

イ 御所ダム

- ・ 歴史ある繋温泉の移転、温泉街造成
- ・ 国・県・市町村の広域的な協議体を設置
- ・ 2,000 件超の相談に対応した協力会 → この方式が全国モデル（御所ダム方式）となり、水特法制定につながる

(7) 技術革新と全国への波及

- ・ 石淵ダム：我が国初のロックフィル技術
- ・ 田瀬ダム：アメリカから高压放流設備導入 → 後に国産化
- ・ 湯田ダム：圧着式オリフィスゲート、フリップバケット方式
- ・ 四十四田ダム：複合式ダム構造の技術確立
- ・ 一関遊水地：カゴマット工法・芝堤による越流など維持管理を考慮した技術

(8) 事業効果

ア 治水面

- ・ 五大ダム完成（昭和 50 年代）以降、岩手県の水害報告件数は激減
- ・ 一関遊水地は工事中から効果を発揮し、平成 14・19 年洪水でも浸水面積を大幅に抑制

イ 利水面

- ・ 近年の渇水では、胆沢ダムが貯水率 1%まで低下しつつも胆沢平野 9,000ha へ安定供給
- ・ 東北の米生産（全国 37%）を支える重要インフラとして機能

ウ 地域振興

- ・ 昭和 28 年と昭和 40 年を比較した統計では、生産所得が 4.3 倍、県民一人当たり所得が 4 倍、農業生産額が 4 倍以上、電力最大出力が 3 倍 → 岩手県の現在の産業基盤形成に決定的貢献

事業報告

(9) まとめ — プロジェクトから学んだこと

佐藤氏は、五大ダムと一閑遊水地の長期間にわたる事業から次の教訓を強調した。

ア 公共事業には明確な目的設定が不可欠（県土保全、県民生活の向上）

イ 多くの関係者の理解と協力が不可欠（地権者、下流住民、自治体、技術者、行政）

ウ 技術者の使命

- ・ 100年先の社会を支えるインフラをつくることの尊さを自覚し、技術士倫理綱領の精神に基づいて職務を果たすこと。

2 質疑応答

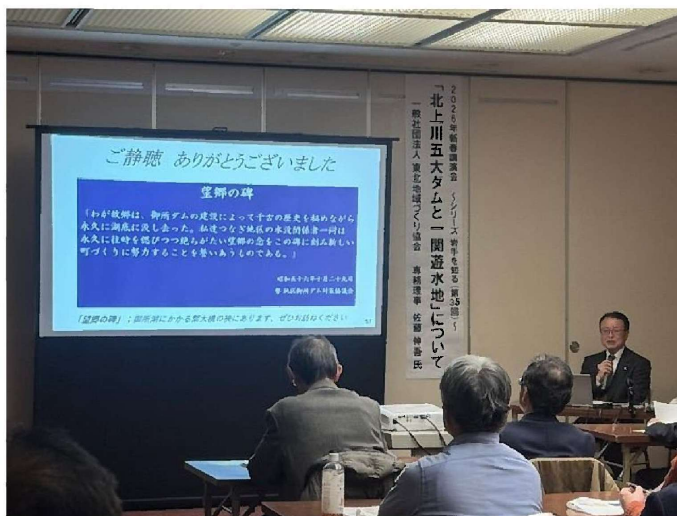
- ・ 一閑遊水地近くで育った参加者より、遊水地整備による地域の安心感と工事関係者への感謝が述べられた。
- ・ 森林関係者からは「森林の保水能力と治水の関係」が問われ、佐藤氏は針葉樹・広葉樹を組み合わせた多様な森林層の重要性を説明後、治山と治水の最適な組み合わせが不可欠であると述べた。

【文責：佐藤充弘】

写真1 講演中の佐藤氏



写真2 講演中の佐藤氏と会場の様子



岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	広報委員会広報活動 (1. ガイアパラダイムへの寄稿 2. いわてまるとと科学館への出展)
主催	1. 日本技術士会東北本部(ガイアパラダイム) 2. いわてまるとと科学館実行委員会(いわてまるとと科学館)
日時	1. ガイアパラダイム第81号(2025/7/1), 第82号(2026/1/1) 2. いわてまるとと科学館(2025/11/29)
場所	1. ガイアパラダイム技術士東北紙面 2. いわて県民情報交流センター アイーナ
参加人数等	1. ガイアパラダイム第81号は1名、第82号は3名寄稿 2. 2名(岩手県支部より)

活動内容

1. ガイアパラダイム技術士東北への寄稿 (第81号、第82号)

第81号では当支部の利部哲が、各県支部活動報告の項において岩手県支部の2024年度後期活動内容を報告しました。

第82号には当支部の吉田宏氏より「大船渡市大規模林野火災に携わって」の題目で寄稿していただきました。また、各県支部長年頭の挨拶を菅原支部長より寄稿していただきました。その他には、各県支部活動報告の項に、利部哲が岩手県支部の2025年度前期活動を報告しました。

2. いわてまるとと科学館

今年度も昨年度に引き続き当支部の協賛団体である(株)タカヤ様と(株)タックエンジニアリング様のご協力により、次のとおりブースを出展しました(写真1)。

- (1) 株式会社タックエンジニアリング様
 - ・PCを用いたUAV操縦シミュレーション
 - ・専用ゴーグルによるUAV撮影動画のVR体験他
- (2) 株式会社タカヤ様の出展内容(写真3)
 - ・重機シミュレーターによる操作体験
 - ・大型モニターでの現場撮影映像の放映



写真1: ブース出展の様子
《利部 記》


岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	令和7年度鋼構造コンクリート・道路研究会合同現場研修会 (CPD 番号 7-10)
主催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部 鋼構造コンクリート研究会・道路研究会
日時	2025年12月12日(金) 14:00~15:00
場所	宮古盛岡横断道路田鎖墓目道路(仮称) 墓目大橋下部工工事 岩手県宮古市墓目地内
参加人数等	19人
活動内容	
<p>【現場研修会の概要】</p> <p>鋼構造コンクリート研究会及び道路研究会では国(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)が直轄権限代行事業により整備を進めている宮古盛岡横断道路(一般国道106号)田鎖墓目道路の(仮称)墓目大橋下部工工事で現場研修会を開催し、19人が参加した。</p> <p>【現場研修会対象事業の概要】</p> <p>宮古盛岡横断道路(一般国道106号)は、三陸沿岸道路と東北縦貫自動車道を結ぶとともに、盛岡秋田道路(一般国道46号)と一体となり、東北地方の連携・交流の骨格となる格子状骨格道路ネットワークを構成する極めて重要な路線であり、救急医療活動の支援、広域周遊観光の拡大、災害に強い道路ネットワーク確保の観点からも重要な役割を担う幹線道路である。</p> <p>しかし、平成28年8月の台風第10号により、宮古市根市～墓目をはじめ各地で道路が寸断し、長期にわたる広域的な迂回が必要となり、救援活動や県民生活に多大な支障が生じた。</p> <p>このため、自然災害に対する脆弱性の解消や、救急医療活動及び地域産業の更なる支援を図るため、国が直轄権限代行事業により令和2年度に整備に着手し、現在、宮古市墓目地内の(仮称)墓目大橋等で工事が進められている。</p> <p>【現場研修会の実施状況】</p> <p>現場研修会では、工事受注者の株式会社テラから事業概要、工事の進捗状況等について説明があった後、工事が進むA橋台、P1橋脚の施工状況等を確認した。</p> <p>参加者からは、採用している鉄筋工の機械式継手やコンクリートのひび割れ対策、省力化の取組等に関する活発な意見交換が行われ、有意義な現場研修会となった。</p>	
 <p style="text-align: center;">田鎖墓目道路の工事状況</p>	
 <p style="text-align: center;">現場研修会の状況 (A1橋台)</p>	
 <p style="text-align: center;">参加者で集合写真 (道路研究会代表 熊谷 記)</p>	

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	令和7年度河川研究会現場研修 (CPD 番号7-3)
主催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部河川研究会
日時	2025年9月26日(金) 10:30 ~ 15:00
場所	(1)盛岡市 (2)滝沢市
参加人数等	会員:15人 説明:国土交通省北上川ダム統合管理事務所職員 岩手県盛岡広域振興局土木部職員
活動内容	
<p>1. 事業概要 (1) 四十四田ダム改修計画(目的) 四十四田ダム嵩上げと御所ダム操作規則変更により盛岡市街地の洪水被害軽減。(事業)北上川上流ダム再生事業(事業費)約300億円(事業期間)H31 (R元) -R10予定 (諸元)ダム高50.0→52.0m、堤頂長480→560m、総貯水容量4,710→5,460万m³、有効貯水容量3,550→4,300万m³湛水面積3.9→4.3km² (2) 北上川・松川河川改修:(目的)H25年9月台風第18号豪雨浸水被害再度災害防止、盛岡市玉山地区を守る。(事業)広域河川改修事業(事業費)約31億円(事業期間) H27-R25(諸元)事業区間:北上川9.7km松川6.0km、河道拡幅、築堤、護岸工、樋門 (3) 木賊川遊水地 (目的)H14洪水等度々発生する浸水被害軽減。盛岡市・滝沢市街地を守る。(事業)広域河川改修事業(事業費)約160億円(事業期間) S61-R29(諸元)河川改修4,400m、分水路1,600m、遊水地31.0ha、築堤、掘削、護岸等</p> <p>2. 現場研修(主な質疑応答)</p> <p>(1) 四十四田ダム ①昭和43年竣工で57年経過したダムコンクリート状況は?→過去の調査結果では強度に問題なし。②ダム嵩上げ材料は?→調達状況を勘案し今後決定する。③工期は?→令和10年度と記載あるが見直す予定。④ダム湖堆砂のヒ素の由来は?→旧松尾鉱山の強酸性水を水質改善するため投入された中和剤による中和生成物が由来 等。</p> <p>(2) 松川 ①バックホウの点群データのセンサー密度は?→バックホウバケットに20cm格子間隔でセンサーを設置。②ICT施工重機操作は研修必要か?→研修は行っていない。現場で習得できる。③ICT施工に係る仕様書の出来型管理は?→出来形管理は点群でOK。現場チェックも行う。④ICT施工により効率化はどの程度図られたのか?→丁張り、現場確認の人員を減らすことができる。その分他の作業に従事させることができるようになった。⑤ICT施工は受注者希望型か発注者指定型か?→発注者指定型である。⑥2次元図面を3次元データに変換するのはどなたが行なっているのか?→自社の職員(経験年数7年)が行なっている。等。</p>	
  	
<p>写真(1) 四十四田ダム:盛岡市<左:VRによるダム嵩上げイメージ紹介 中:集合写真 右:監査廊></p> <p>(3) 木賊川遊水地 ①事業費はいくらか?完成はいつか?→事業費は約15,955百万円、完成は令和29年度予定(大規模公共事業再評価調査より) ②河川改修のみでは?→市街地化が進み川幅を広げること制限あるため遊水地と一体で治水対策を行うもの。③付近に住んでいる。遊水地は面積が広いので多くの希少野生動植物が生息していることがわかった。④遠隔重機の利用メリットは?→基本は危険な現場における作業を行うこと。等</p>	
  	
<p>写真(2) 松川:盛岡市<ICT建機による掘削> 写真(3) 木賊川:盛岡市、滝沢市<遠隔重機、分水工> (河川研究会代表 高橋 記)</p>	

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活 動 名	令和7年度 農業研究会 現地研修会 (CPD 番号 7-9)
主 催	(公社) 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 農業研究会
日 時	令和7年10月29日(水) 09:50~16:30
場 所	岩手県花巻市、奥州市
参加人数等	会員9人、一般17人、合計26人 説明者：岩手県南広域振興局 農政部 農村整備室 農村環境課 東北農政局和賀中央農業水利事業所 豊沢川農業水利事業建設所
活 動 内 容	
<p>I. 研究会活動報告</p> <p>岩手県支部農業研究会では、会員の技術研鑽に資する活動の一環として、「国営豊沢川農業水利事業（豊沢ダム）：ダム取水放流施設の改修及び小水力発電施設」、「農村地域防災減災事業白銀沢堤地区（奥州市江刺藤里）：ため池改修（ベントナイトシート工法）工事」、「経営体育成基盤整備事業下横瀬地区（奥州市江刺藤里）：ほ場整備の区画長辺長を等高線に沿わせた等高線区画工事」をテーマにした現地研修会を企画しました。</p> <p>II. 国営豊沢川農業水利事業（豊沢ダム） ～ダム取水放流施設の改修及び小水力発電施設～ 講師：東北農政局和賀中央農業水利事業所 豊沢川農業水利事業建設所 工事課長 荻原孝生 氏</p> <p>本事業は、農業用水の安定供給と施設の維持管理費用の軽減を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定に資することを目的に、ダム取水放流施設や管理施設等の改修を行い、併せて小水力発電施設を新設するものである。</p> <p>【概要】</p> <p>① 事業名及び地区名 国営かんがい排水事業「豊沢川地区」</p> <p>② 事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係市町 花巻市、北上市 ・関係団体 豊沢川土地改良区 ・予定工期 平成27年度～令和7年度 ・受益面積 4,250 ha ・総事業費 67 億円 <p>③ ダムの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・型 式 重力式コンクリートダム ・流域面積 A=60km² ・堤高堤長 h=59.1m, L=150m ・貯水量 V=総貯水量 23,360 千 m³ 有効貯水量 19,860 千 m³ <p>④ 主要工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤体（堤体補修、左岸擁壁改築）、取水放流施設（洪水吐のゲート更新と上屋新設、取水施設、放流施設のゲート更新と上屋改修）、管理施設（事務所改築、管理システム更新）、小水力発電施設（小水力発電施設の新設） 	
 <p style="text-align: center;">工事概要について説明を受ける</p>	

⑤ 小水力発電施設

- ・本施設は、豊沢川土地改良区が管理する施設の維持管理費の低減を目的に、ダム放流施設の下流側に本施設を設置しダムからの有効落差約40mを利用して発電を行っている。
- ・発電機は横軸フランシス2台(φ1000、φ700)、最大出力1,969kw、主にかんがい用水と河川維持用水を利用して発電している。他の自然エネルギーに比べて、発電量が比較的安定しているのが特徴である。
- ・一方で、今年8月以降の渇水は、計画発電量を大きく低下させた。貯水位282mを下回ると発電が停止し、さらに低水位時は発電効率も低下する。
- ・計画通りの貯水位・量が確保されれば、年間約1億円の売電収入が見込まれる。



洪水吐ゲート（扉体）を点検歩廊より確認



発電機（横軸フランシス水車）

III. 農村地域防災減災事業 白銀沢堤地区

～ため池改修（ベントナイトシート工法）工事～

講師：岩手県南広域振興局 農政部 農村整備室

農村環境課 主査 横澤和志 氏

本ため池は、江戸時代以前に築造され、これまで簡易な補修を重ねながら利用されてきたが、近年、風水害による堤体の浸食や取水・底樋施設の機能低下、堤体の一部崩落が確認されているほか、堤体の安定度が基準を下回るなどの問題が生じている。このままの状態では、大雨や地震の発生時に堤体が決壊する恐れがあり、決壊した場合には下流の家屋等に被害が及ぶ可能性がある。このため、ため池を改修し、被害の未然防止を図るとともに、施設の長寿命化を図るものである。

【概要】

① 事業名及び地区名

農村地域防災減災事業 白銀沢堤地区

② 事業概要

- ・工 期 令和4年度～9年度
- ・主要工事 堤体工127m、取水工1式
洪水吐工1式、排水路工400m
- ・総事業費 483,000千円
- ・施設管理者 江刺猿ヶ石土地改良区

③ ベントナイトシート（ボルクレイマット）工法

ベントナイトシートは、天然ベントナイトをジオテキスタイル等で保護した難透水性遮水材

であり、特別な施工技術が必要とせず施工できることが特徴に挙げられる。他のシート工法（高密度ポリエチレン樹脂系シート、ポリ塩化ビニル樹脂系シート、合成ゴム系シート、アスファルトシート）に比べ、耐久性が優れているが、ため池表面にベントナイトシートを露出させたままにできないため（覆土が必要）、既設アース堤体に利用する場合は十分な検討が必要。



堤体工（ベントナイトシート）施工状況

④ ベントナイトシート施工

シートの重ね幅は、シート同士の接続部、構造物との取り合い部、地山との接続部など、それぞれで基準が異なるため、施工時には十分な管理が必要。施工は、ロール状のシートをため池の法面に引き延ばしながら行う法面上の敷設作業であるため、昇降設備を設置のうえに安全かつ効率的な施工が求められる。また、シート敷設後はシートの膨潤や損傷を防ぐため、速やかに所定厚さに覆土し築堤作業を施工する必要がある。

⑤ 自己修復性能を有するシート

ベントナイトのピーカー試験を実施したところ、通常の粘土と比べ 吸水性能が高く、吸水すると瞬時に膨張することが確認された。

何らかの原因でベントナイトシートに穴が開いた場合でも、水と反応したベントナイトが膨張し穴を自己の修復性能で塞ぐことができる。



ベーカー試験（ベントナイトの膨張を確認）

IV. 経営体育成基盤整備事業 下横瀬地区

～ほ場整備の区画長辺長を等高線に沿わせた等高線区画工事～

講師：岩手県南広域振興局 農政部 農村整備室

農村環境課 総括主任主査 豊坂光弘 氏

近年の中山間地域におけるほ場整備事業は、労務費や資材価格の高騰に加え、地形条件等による施工上の不利な要因が重なり、工事費が増大する傾向にある。本地区では、等高線に沿った区画（いわゆる等高線区画）を採用することにより、経済性の向上のみならず、地盤の安定性の確保、維持管理労力の軽減および作業時の安全性向上を図るものである。

【概要】

① 事業名および工事名

経営体育成基盤整備事業 下横瀬地区第3号工事

② 工事概要

- ・工事場所 岩手県奥州市江刺区藤里地内
- ・事業工期 令和6年9月27日～令和7年9月10日
- ・工事内容

整地工	A=7.61ha
用水路工	L=1,270.0m
排水路工	L=1,231.0m
道路工	L=1,558.0m

③ 等高線区画の概要

中山間地域などの傾斜が急で地形が複雑な立地条件において、区画整理の区画長辺の畦畔を平行な状態に保ち、地形に沿わせて営農に支障のない程度に区画長辺方向を折り曲げて区画整理を行うもの。いわゆる等高線に沿わせた区画整理の工事工法。



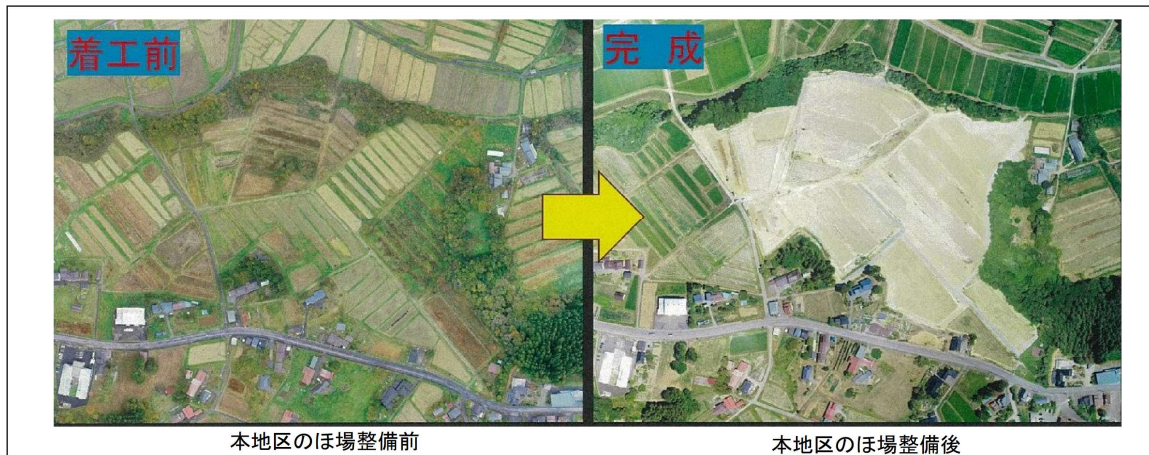
等高線区画のほ場状況

④ 等高線区画の効果

- ・扱い土量（切盛土量）が減少するため、施工性・経済性が一般的なほ場整備工法に比べて有利である。
- ・盛土部が少なくなるため、地盤安定や、盛土法面の崩落防止が図られる。
- ・耕区、ほ区間の段差が抑制され、のり面等の草刈り面積を縮小することができる。このため、維持管理労力の縮減、作業安全性の確保が図られる。

⑤ その他

- ・区画の折り曲げ角度は、30°以下であれば営農上の支障が無い。実際に作業した営農者からは、「形の良い田んぼに比べても支障なく作業ができた」、「今後の別作業も問題なくできそうだ」との意見が寄せられている。
- ・暗渠排水についても曲げ角度30°であればポリ管の可とう性能の範囲で施工が可能。



IV. 編集後記

本年度の現地研修会は、国営豊沢川農業水利事業（豊沢ダム）、農村地域防災減災事業 白銀沢堤地区、経営体育成基盤整備事業 下横瀬地区において、最新の土木技術と施工現場を通して、農業土木の多くを学ぶ機会となりました。

豊沢ダムでは、改修された取水放流施設や新設の小水力発電施設を視察。参加者は、施設の規模感に驚かされるとともに、操作盤のQRコードを読み取ることで、操作方法や緊急時の対応などの画像を即座に確認できる仕組みに大きな関心を寄せていました。現地での即応性を高める取組をしており、非常に有効であると感じました。

また、新設の小水力発電施設では、水量のみならずダムの水頭差（40m）によって効率的な発電が可能となることを、実際に体感することができ、小水力発電の効率的な仕組みを理解する貴重な機会となりました。



操作盤のQRコード

白銀沢ため池では、施工中の堤体工事を視察し、ベントナイトシートと構造物の取合いや地山との収まりなど、完成後には視認ができない工程状況等を研修することができました。

また、現地で行ったベントナイト資材の膨張試験では、一般的な粘土と比較して高い吸水性や膨張性を視認し、遮水材としての特性を施工現場で確認できました。近年、従来の前刃金工法で必要な良質な粘土（遮水材）の調達・確保が年々困難となっているため、代替工法が喫緊の課題であるが、ベントナイトシート工法が代替工法となることを確認できました。

下横瀬地区では、等高線区画に整備されたほ場整備を視察しました。等高線区画は基準書にも記載されている比較的知られた整備手法であるが、県内実績として殆どないのが現状であります。このため、発注者・施工業者は受益者と連携した試験的な施工も行われたとの苦労話がありました。

なお、一部の現地では区画形状に沿わない従来の直線的な水稻栽培がされており、本設計思想と営農のギャップがありました。改めて現場の知見を重ねることの大切さを再認識しました。

今年度も若手技術者や女性技術者の積極的な参加があり、視察現地では活発な質疑が交わされました。その都度、各講師から丁寧でわかりやすい説明・回答を頂き、参加者の理解向上に資することができたものと思います。来年度も本企画の継続を要望する声が寄せられており、引き続き会員の方々からの要望に応えられる企画をご案内して参る所存です。

結びに研修会講師を快くお引き受けくださいました東北農政局和賀中央農業水利事業所 豊沢川農業水利事業建設所 工事課長 萩原孝生 様、岩手県東南広域振興局農政部農村整備室農村環境課 総括主任主査 豊坂光弘 様、同課主査 横澤和志 様に厚く感謝申し上げます。

（文責 佐藤 俊孝）

岩 手 県 支 部 委 員 会 ・ 研 究 会 活 動 報 告

活 動 名	令和 8 年度 森林・水産研究会 研修会 (CPD 番号 No. 8 - 1)		
主 催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 森林・水産研究会		
日 時	令和 8 年 4 月 16 日 (木) 総会 15 : 00 ~ 15 : 30 研修会 15 : 40 ~ 17 : 10		
場 所	岩手県盛岡市内丸 17-45 北ホテル		
参加人数等	総会 16 名 研修会 17 名 (講師 1 名を含む)		
活 動 内 容			
1. 令和 8 年度 森林水産研究会総会			
1.1 令和 7 年度活動報告、会計報告 令和 7 年度の活動報告について代表より、会計報告について事務局より説明を行い会員からの承認を得ました。			
1.2 令和 8 年度活動計画(案) 令和 8 年度の活動計画(案)について代表より説明を行い会員からの承認を得ました。			
2. 令和 8 年度 森林水産研究会研修会			
<p>「大船渡市林野火災にて被災したスギ被害木の強度調査等について」 講師：岩手県林業技術センター 首席専門研究員 博士(生物資源科学) 谷内 博規 氏</p> <p>昨年、大船渡市において平成以降で国内最大規模(約 3,370ha)の森林火災がありました。これにより被災したスギ被害木の強度調査等について紹介されました。</p> <p>火災から概ね 4 ヶ月間経過した被害木を供試し、その利用可能性について、力学、化学特性を調査し、以下の報告がありました。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)加工性、板材の見た目は、健全材と変わらない (2)強度性能は、焼損度によらず、集成材に利用可能なレベルで、健全材と遜色ない (3)焼損度「激」の樹皮下辺材部の化学特性は、健全材と大差ない (4)海水の影響について、代表サンプルの樹皮、辺材部の塩素濃度は健全材と同程度 (5)焼損度が高くなると、樹被厚は減少傾向を示し、保水、防虫抗菌機能の低下が懸念 <p>講演後の質疑応答ではたくさんの質問があり、大変活発で有意義な研修となりました。</p> <p style="text-align: right;">以上ー(文責 佐々木)</p>			
		 <p style="text-align: center;">総会の様子</p>	
		 <p style="text-align: center;">研修会の様子</p>	
		 <p style="text-align: center;">講師 谷内 博規 氏</p>	

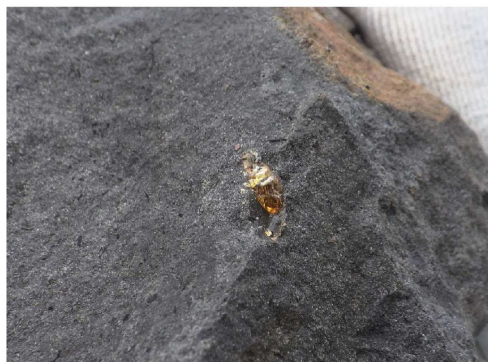
岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	令和7年度 森林・水産研究会 現地研修会 (CPD 番号 No.7 - 7)		
主催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 森林・水産研究会		
日時	2025年10月10日(金) 8:00~17:30		
場所	釜石市 岩手県水産技術センター 大船渡市 林野火災現場		
参加人数等	参加者 17名 案内: 岩手県水産技術センター 岩手県大船渡農林振興センター 森林保全課		
活動内容			
<p>以下のテーマによる現地研修会を実施した。</p> <p>①岩手県水産技術センター見学 10:00~11:40(100分) 案内: 岩手県水産技術センター 副所長 日向様 各部ご担当者様 →いわての水産概要、海水面温度上昇による漁獲物の違い、最新の研究内容、センター施設設備などを説明していただいた。2017年8月から続いた黒潮大蛇行が2025年4月に終息し、黒潮の流れが本来のルートに戻りつつある。</p> <p>②大船渡市綾里地区林野火災対策現場見学 13:30~15:00(90分) 案内: 大船渡農林振興センター 森林保全課 主査 高橋 直也様 技師 浅沼 光 様 →被災溪流 2箇所を見学し、大船渡市林野火災の被災概要および復旧に向けた取り組みなどを説明していただいた。被害木の被害区分の違いや下層植生の復旧状況の違いを現地で確認した。樹冠の焼損具合により、下層植生の復旧状況が異なる。下層植生の無い溪流では、夏の大雨による土砂流出が確認されている。ただし、応急対策として下流に大型土のうを設置していたことより、下流への被害は見られなかった。</p> <p>現地研修会①では、サケの減少課題を解決するため、北海道沖で放流する移送放流試験を行っている。また、新たな貝類養殖の事業化に取り組んでいることを知ることができました。</p> <p>現地研修会②では、林野火災として平成以降で国内最大規模の約 3,700ha の被災であり、山地災害の防止も含め、被害木の処理や利用、森林の復旧に向けた取り組みを知ることができました。</p> <p>各研修ではたくさんの質問があり、時間が足りないほど大変有意義な研修会となりました。 今後も現場研修会を通じて技術の研鑽に努めて参ります。</p> <p style="text-align: right;">以上-(文責 佐々木)</p>			
			<p>岩手県水産技術センターでの研修状況</p>
			<p>林野火災対策現場見学</p>
			<p>集合写真</p>

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

1 / 4

活動名	令和7年度応用理学研究会野外見学会 (CPD 番号 7-6)
主催	(公社) 日本技術士会東北本部岩手県支部応用理学研究会
日時	2025年10月8日(水) 10:00~16:30
場所	久慈市大川目、侍浜町、野田村野田、玉川ほか
参加人数等	21名
活動内容	
<p>岩手県支部応用理学研究会では、今年度も継続研鑽の一環として野外見学会を企画し、次のような内容と行程で実施しました。</p> <p>テーマ：三陸北部の地質の見どころ観察 案内者：越谷 信 氏 岩手大学名誉教授 理学博士 岩手大学地域防災研究センター 客員教授</p> <p><行程> 9:45 (株) 昭和土木設計から乗合などにより「道の駅おりつめ」オドデ館前に集合 10:00~10:10 ・オリエンテーション、北上山地の地質構造について概説 10:30~11:00 ・Stop 1 久慈市大川目 モリブデン鉱床 11:30~12:00 ・Stop 2 久慈市侍浜 侍浜海水プール 久喜花崗岩体 13:40~14:20 ・Stop 3 久慈市長内 赤浜展望台 マイロナイト 14:40~15:20 ・Stop 4 野田村野田 玉川海岸 久慈層群(琥珀) 15:30~16:30 ・Stop 5 野田村玉川 マリンローズパーク野田玉川 16:40 まとめ、散会 <オブザーバー参加>：佐藤修一郎 氏 (岩手県立博物館 専門学芸調査員)</p> <p>オドデ館に向かう高速道では八幡平市付近で雨模様が強まり、天気に心配もありましたが、越谷先生も自ら「晴れ男」とのこと、沿岸側に近づくとつれ、徐々に天候も回復し、大川目からは好天に恵まれ、今年も“その他多くの「晴れ男」の方”に助けて頂いたと感謝申し上げます。</p> <p>参加者は総員で21名でした。当研究会の見学会では例年、技術士の同伴の下で、技術士を目指す若手の技術者の方々にも、ご参加を頂いております。今回も多くの若手の技術者の方に参加をいただき、20代~70代までの非常に幅広い世代の技術者が、一緒に楽しく見学会を実施できたことは、とても意義深いことではないかと思っております。</p> <p>次の機会においても、さらに多くの技術者の方にご参加をいただき、世代間でコミュニケーションを図りながら、応用理学(地質)の見学ができれば非常に有難いものと考えております。</p> <p>最後に、お忙しい中、講師をお引受けくださり、見学会の開催にご尽力を賜りました越谷先生、本当にありがとうございました。</p> <p>また、何より事故なく無事に見学会を行えたことについて、ご参加を頂いた皆様方のご協力・ご配慮に深く感謝申し上げます。</p> <p style="text-align: center;">玉川海岸で加藤修さんが見つけた琥珀です→</p> <p style="text-align: center;">《菅原 弘 記》</p> <p style="text-align: center;">・・・次ページ以降に活動状況写真・・・</p>	



オリエンテーション・北上山地の地質構造について概説



オドデ館にてオリエンテーションと、北上山地の地質構造についての概説（越谷先生から）



講師をお願いした越谷先生
今年もありがとうございます。

Stop 1: 大川町 モリブデン鉱床



緑色凝灰岩中にモリブデン鉱を含む節理と石英脈が観察できる。大島造山運動による引張性応力場が影響した。



モリブデン鉱山跡付近で説明を聞く様子

Stop 2: 侍浜海水プール 久喜花崗岩体と岩脈



侍浜海水プールで久喜花崗岩体の説明を聞く様子



ペグマタイト岩脈(上)とその観察の状況



侍浜海水プール 久喜花崗岩体の上での集合写真

Stop 3: 久慈市赤浜展望台 マイロナイト



赤浜展望台下の崖が観察ポイント



説明を受ける参加者の様子



マイロナイトの観察の状況



破壊を伴わないで変形した岩石がマイロナイト
花崗岩とそのマイロナイトを観察した

Stop 4: 玉川海岸 久慈層群 (琥珀化石など)



野田玉川海岸における観察の状況と
本間健一郎さんが発見したアンモナイト化石(左下)
テキサニテスという種で
この地層における発見は大変に貴重とのことです

Stop 5: マリンローズパーク野田玉川



マリンローズ野田玉川を見学後の集合写真 ~皆さまお疲れ様でした。~

以上

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	(CPD 番号 7 - 1 3)		
主 催	(公社) 日本技術士会東北本部岩手県支部 建設 I C T 生産システム研究会		
日 時	2026 年 3 月 2 日 (月) 13:30~15:00		
場 所	エスポワールいわて 1 階小会議室 盛岡市中央通一丁目 1-38		
参加人数等	15 名		
活 動 内 容			
<p>【企画意図】 2025 年 6 月「AI 基本法」が公布され、12 月には「AI 基本計画」が発表されている。 現在、建設分野においては BIM/CIM、i-Construction が進展しており、こうした施策をより一層加速させるためには、AI との連携・活用が不可欠になっていると考えられることから、今回の研修企画に至った。</p> <p>【講演概要】 講演タイトル：A I の効果的な活用と発展可能性 講 師：岩手県立大学ソフトウェア情報学部 人工知能コース 教授 間 所 洋 和 氏 講演は以下の内容で行われた。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p>1. 導入 (15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 背景と目的 ▪ AI 活用の現状と課題 ▪ AI と建設 ICT の動向 <p>2. AI の基礎と発展 (40分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 人工知能とは ▪ 機械学習とは ▪ 深層学習とは ▪ 認識と理解 ▪ 予測と判断 ▪ 言語モデル ▪ 3次元再構成 </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <p>3. 実務事例と AI による効果 (15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 設計における AI 活用 ▪ 施工における AI 活用 ▪ 維持管理における AI 活用 ▪ 生産性向上のための AI 活用 ▪ 経営における AI 活用 <p>4. 今後の展望と発展可能性 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ AI 活用の課題とリスク ▪ AI の発展可能性 <p>5. 質疑応答 (10分)</p> </td> </tr> </table>		<p>1. 導入 (15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 背景と目的 ▪ AI 活用の現状と課題 ▪ AI と建設 ICT の動向 <p>2. AI の基礎と発展 (40分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 人工知能とは ▪ 機械学習とは ▪ 深層学習とは ▪ 認識と理解 ▪ 予測と判断 ▪ 言語モデル ▪ 3次元再構成 	<p>3. 実務事例と AI による効果 (15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 設計における AI 活用 ▪ 施工における AI 活用 ▪ 維持管理における AI 活用 ▪ 生産性向上のための AI 活用 ▪ 経営における AI 活用 <p>4. 今後の展望と発展可能性 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ AI 活用の課題とリスク ▪ AI の発展可能性 <p>5. 質疑応答 (10分)</p>
<p>1. 導入 (15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 背景と目的 ▪ AI 活用の現状と課題 ▪ AI と建設 ICT の動向 <p>2. AI の基礎と発展 (40分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 人工知能とは ▪ 機械学習とは ▪ 深層学習とは ▪ 認識と理解 ▪ 予測と判断 ▪ 言語モデル ▪ 3次元再構成 	<p>3. 実務事例と AI による効果 (15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 設計における AI 活用 ▪ 施工における AI 活用 ▪ 維持管理における AI 活用 ▪ 生産性向上のための AI 活用 ▪ 経営における AI 活用 <p>4. 今後の展望と発展可能性 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ AI 活用の課題とリスク ▪ AI の発展可能性 <p>5. 質疑応答 (10分)</p>		
			

(※ 活動状況の写真を貼り付けてください。)

2026 年度岩手県支部事業計画書

[2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日]

■ 活動理念

- 自らの資質を向上させるよう、社会の変化と今後の動向を的確にとらえ技術の研鑽に継続して取り組む。
- 岩手県支部の総合力を向上させるよう組織強化を図るとともに、支部活動を通じて会員相互の連携を強化する。
- 社会・地域により一層の貢献ができるよう、公益的な活動や他機関との協働を進める。
- 技術士活動の継続的な発展が図られるよう、あらゆる場で若い技術者の育成を心がける。

■ 2026 年度の活動にあたって

東日本大震災は、15 年が経過した今でも、さほど遠くはない過去の事象として我々の脳裏にしっかりと刻まれています。また、近年は、地震や津波、豪雨に加え、山林火災といった多様な自然災害が頻発しており、都会と地方それぞれの環境に応じて、的確に対応できる体制の構築がより重要となっています

このような中、11 月には本県において「地域産学官と技術士との合同セミナー」が開催されます。今回のセミナーでは、“イーハトーヴいわてから「地方のまちづくり」を考える”をテーマとし、豊かな自然と独自の文化を有し、度重なる災害から復興を遂げてきた岩手において、地域資源を活かしながら「人口減少時代に適応したまちづくり」を考えることとしています。まずは、当セミナーの成功に向け、会員が一体となった準備を進めていきます。

また、一般の方々には未だなじみが薄い技術士制度について、産学官のみならず、その枠組を超えた様々な活動を通じて当制度を積極的に PRするとともに、新たな技術士の育成につながるよう努めていきます。

継続教育（CPD）により研鑽を重ねることは、我々技術士としての責務です。一昨年以來定着した倫理研修を継続するほか、日進月歩の勢いで進化するビッグデータ、AI や IoT を始めとするデジタル情報技術やその他の研修内容についても検討を進めるとともに、CPD 登録会員の増加を図っていきます。

以上の方針により、引き続き社会・地域から頼りにされる技術士会岩手県支部を目指した活動を展開してまいります。

今年度は、全国規模のセミナーのほか、技術士第一次試験会場として初めて本県が選定されるなど、例年以上に多忙な対応が想定されますので、改めて会員の皆様のご理解

とご協力をお願い申し上げます。

I. 一般事業

1. 委員会活動

主体	事業計画	概要	実施予定
役員会	役員会	岩手県支部の規則に則り年間6回を計画し、支部活動に関する協議を行なう	隔月
総務委員会	2026年度次大会	2025年度活動報告及び2026年度事業計画	2026.7.4
	技術士名簿作成	岩手県支部及びいわて技術フォーラム会員技術士の名簿作成	2026.6
企画委員会	いわてまるごと科学館への出展	岩手県政策地域部の主催による、小中学生を対象とした、広く科学技術についての教育啓蒙活動への参加。当支部もその協賛支援団体で参画。	2026.11.28
	2027新春講演会	～シリーズ岩手を知る第36回～	2027.1.23
広報委員会	HP運用	会員及び一般向けの情報掲載	随時
	ガイアパラダイムへの寄稿	各県支部長年頭の挨拶 岩手県支部活動報告等(2回/年)	東北本部 依頼時
	いわてまるごと科学館への出展	岩手県政策地域部の主催による、小中学生を対象とした、広く科学技術についての教育啓蒙活動への参加。当支部もその協賛支援団体で参画。	2025.11.28
技術委員会	第4回倫理研修	「技術士倫理綱領」の各条項を踏まえたテーマを設定	2027.1.23

2. 研究会等活動

研究会名	事業計画	概要	実施予定
道 路	現場研修会	一般国道 281 号 (仮称) 下平トンネル築造工事	2026.10~12
河 川	現場研修会	国土交通省 成瀬ダム建設事業 テーマ：CIM、国内最大級 CSG ダム (Cemented Sand and Gravel=現地発 生材にセメントと水を混合してつくる)	2026.9
都 市	現地視察・ 意見交換会	現在実施している都市計画事業の現地 視察と意見交換会を実施	2026.8
農 業	現地研修会	県内の主な農業農村整備事業等に関する 現地研修	2026.10 下旬
機械電気	検討中		
森林・水産	講演会	「大船渡市大規模林野火災にて被災した スギ被害木の強度調査等について」 講師：岩手県林業技術センター 首席専門研究員 谷内博規氏	2026.4
	現地研修会	① バイオマス発電施設、バイオマス 燃料製造施設見学 ② 林業機械製造工場見学	2025.10
応用理学	野外見学会	応用理学に関連する見学会 (技術士を目指す若手技術者～若手技 術士、ベテラン技術士までを対象に、 応用理学の見学と併せ世代間コミュニ ケーションの活性化を図る場とす ることを目的に開催する。講師：越谷 信 氏	2025.10
	親睦会	盛岡市 研究会員の親睦、意見交換の場として	2025.6
鋼構造及び コンクリート	現場研修会	現場研修：(一般国道 281 号 (仮称) 下 平トンネル築造工事)	2025.10~12
建設 ICT 生産 システム	3次元モデル 利用研修	3次元モデルの新たな表現方法	2026.10

※道路研究会、鋼構造及びコンクリート研究会は、共同開催

3. 社会貢献活動

(1) 講演会などの開催

岩手県の震災復興、地域の活性化に向けた取り組みについて情報発信を行う。

(2) いわてまるごと科学館への参加

例年通りの対面方式を予定している。

- ・ 主催：岩手県（いわてまるごと科学館実行委員会）
- ・ 開催目的：将来を担う子供たちに先端科学にふれる機会を提供する県民参加型科学技術の普及活動
- ・ 日時：2026年11月28日（土）
- ・ 場所：アイーナ（盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1）
- ・ 当支部・フォーラムの参加：体験・展示コーナーへの出典を予定

4. 特定案件委員会活動

主体	事業計画	概要	実施予定
合同セミナー 実行委員会	合同セミナー	実行委員会の計画に基づき、毎月1回実行委員会を開催し、セミナー開催に向けた協議・調整を行う。	毎月

5. その他

岩手県内在住の技術士が参加できる事業を展開し、併せて日本技術士会未加入の技術士に対する加入促進を図る。

東北本部 + 岩手県支部 一般会計収支予算書（案）
 （2025年4月1日から2026年3月31日まで）

東北本部 + 傘下県支部 一般会計収支予算書
 （2026年4月1日から2027年3月31日まで）

（単位：千円）

科 目	次年度	今年度	増 減	東北本部			岩手			補足説明
				(次年度)	(今年度)	(増減)	(次年度)	(今年度)	(増減)	
I 事業活動収支の部										
1 事業活動収入										
(1)入会金収入	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	
①会員入会金収入	0	0	0			0			0	
②賛助会員入会金収入	0	0	0			0			0	
(2)会費収入	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	
①会員会費収入	0	0	0			0			0	
②準会員会費収入	0	0	0			0			0	
③賛助員会費収入	0	0	0			0			0	
(3) 事業収入	[0]	[2,740]	[△ 2,740]	[0]	[180]	[△ 180]	[0]	[0]	[0]	
①広告料収入	0	1,600	△ 1,600			0			0	
②参加費収入	0	1,010	△ 1,010		150	△ 150			0	
③各種資料等頒布収入	0	130	△ 130		30	△ 30			0	
④外部依頼管理収入	0	0	0			0			0	
⑤CPD事業収入	0	0	0			0			0	
⑥APEC審査登録手数料収入	0	0	0			0			0	
⑦IPEA審査登録手数料収入	0	0	0			0			0	
⑧技術士全国大会収入	0	0	0			0			0	
⑨日韓技術士会議収入	0	0	0			0			0	
⑩受託事業収入	0	0	0			0			0	
(4) 雑収入	[130]	[4,536]	[△ 4,406]	[0]	[3,320]	[△ 3,320]	[130]	[130]	[0]	
①受取利息収入	0	12	△ 12			0			0	
②有価証券運用収入	0	0	0			0			0	
③雑 収 入	50	94	△ 44			0	50	50	0	
④協賛金収入	80	4,430	△ 4,350		3,320	△ 3,320	80	80	0	
⑤寄付金収入	0	0	0			0			0	
(5) 地域組織活動費収入	[7,687]	[7,584]	[103]	[7,687]	[7,584]	[103]	[411]	[411]	[0]	
(6) 地域組織活動補助費収入	[6,490]	[5,160]	[1,330]	[4,290]	[3,880]	[410]	[1,160]	[260]	[900]	
①講演会・見学会開催補助費収入	2,190	2,160	30	890	880	10	260	260	0	
②全国大会補助費収入	0	0	0			0			0	
③日韓技術士会議補助費収入	0	0	0			0			0	
④合同セミナー開催補助費収入	1,300	0	1,300	400		400	900		900	
⑤地域交流促進補助費収入	0	0	0			0			0	
⑥その他補助費収入	3,000	3,000	0	3,000	3,000	0			0	
事業活動収入計 (A)	[14,307]	[20,020]	[△ 5,713]	[11,977]	[14,964]	[△ 2,987]	[1,701]	[801]	[900]	

東北本部十会下県支部 一般会計収支予算書
(2026年4月1日から2027年3月31日まで)

(単位:千円)

科 目	次年度	今年度	増 減	東北本部		岩手		補足説明	
				(次年度)	(今年度)	(次年度)	(今年度)		
2 事業活動支出									
(1) 事業費	[1,480]	[2,121]	[△ 19,731]	[0]	[15,886]	[△ 15,886]	[1,480]	[580]	[900]
① 事業促進費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
対外活動促進費	0	0	0			0			0
会員拡大促進費	0	0	0			0			0
基礎情報整備費	0	0	0			0			0
その他の事業開発費	0	0	0			0			0
② 報酬調査費	0	0	0			0			0
③ 事業広報費	(60)	(3,501)	[△ 3,441]	(0)	(1,870)	[△ 1,870]	(60)	(60)	(0)
会誌印刷費	0	2,450	△ 2,450		1,800	△ 1,800			0
会誌編集関連費	0	0	0			0			0
会誌郵送料	10	290	△ 280		80	△ 80	10	10	0
HPコンテンツ作成費	0	0	0			0			0
インターネット運用費	50	670	△ 620		140	△ 140	50	50	0
その他の広報活動費	0	91	△ 91		50	△ 50			0
④ 普及啓発費	(900)	(0)	[△ 900]	(0)	(0)	(0)	(900)	(0)	[△ 900]
技術士全国大会開催費	0	0	0			0			0
全国大会補助費	0	0	0			0			0
全国大会広報費	0	0	0			0			0
合同セミナー開催費	900	0	900			0	900		900
地域産業活性化支援費	0	0	0			0			0
関係団体会費	0	0	0			0			0
⑤ 相互交流費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
企業内技術士活動推進費	0	0	0			0			0
地域交流促進費	0	0	0			0			0
⑥ 研 鑽 費	(300)	(3,210)	[△ 2,910]	(0)	(880)	[△ 880]	(300)	(300)	(0)
講演会・見学会開催費	300	3,210	△ 2,910		880	△ 880	300	300	0
技術士研修費	0	0	0			0			0
⑦ 海外交流費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
国際交流費	0	0	0			0			0
海外活動支援費	0	0	0			0			0
日韓技術士会議開催費	0	0	0			0			0
⑧ 修習技術者支援費	0	0	0			0			0
⑨ 防災支援活動費	0	0	0			0			0
⑩ 科学技術振興支援費	0	0	0			0			0
⑪ 青年技術士活動支援費	0	0	0			0			0
⑫ 各種資料等作成費	0	30	△ 30		30	△ 30			0
⑬ CPD事業費	0	0	0			0			0
⑭ APEC審査登録事務費	0	0	0			0			0
⑮ IPEA審査登録事務費	0	0	0			0			0
⑯ 受託事業費	0	0	0			0			0
⑰ 業務推進費	(220)	(14,470)	[△ 14,250]	(0)	(13,106)	[△ 13,106]	(220)	(220)	(0)
役員報酬	0	0	0			0			0
給与手当	0	0	0			0			0
法定福利費	0	0	0			0			0
賃 金	0	3,072	△ 3,072		3,000	△ 3,000			0
会 議 費	60	720	△ 660		400	△ 400	60	60	0
旅費交通費	50	2,430	△ 2,380		1,900	△ 1,900	50	50	0
通信運搬費	0	770	△ 770		400	△ 400			0
消耗品費	0	280	△ 280		100	△ 100			0
印刷製本費	0	220	△ 220		100	△ 100			0
各種会合費	0	670	△ 670		200	△ 200			0
光熱水料費	0	190	△ 190		180	△ 180			0
事務所賃借料	80	1,900	△ 1,820		1,000	△ 1,000	80	80	0
賃 借 料	20	370	△ 350		350	△ 350	20	20	0
会員証作成費	0	0	0			0			0
地域組織活動費	0	0	0		2,828	△ 2,828			0
地域委員会活動費	0	3,010	△ 3,010		2,250	△ 2,250			0
雑費その他	10	838	△ 828		400	△ 400	10	10	0
(2) 管理費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
① 役員報酬	0	0	0			0			0
② 給与手当	0	0	0			0			0
③ 法定福利費	0	0	0			0			0
④ 会 議 費	0	0	0			0			0
⑤ 旅費交通費	0	0	0			0			0
⑥ 通信運搬費	0	0	0			0			0
⑦ 什器備品費	0	0	0			0			0
⑧ 消耗品費	0	0	0			0			0
⑨ 印刷製本費	0	0	0			0			0
⑩ 各種会合費	0	0	0			0			0
⑪ 光熱水料費	0	0	0			0			0
⑫ 事務所賃借料	0	0	0			0			0
⑬ 賃 借 料	0	0	0			0			0
⑭ 関係団体費	0	0	0			0			0
⑮ 交 際 費	0	0	0			0			0
⑯ 租税公課	0	0	0			0			0
⑰ 雑費	0	0	0			0			0
事業活動支出計 (B)	[1,480]	[2,121]	[△ 19,731]	[0]	[15,886]	[△ 15,886]	[1,480]	[580]	[900]
事業活動収支差額(A)-(B)	[12,827]	[△ 1,191]	[14,018]	[11,977]	[△ 922]	[12,899]	[221]	[221]	[0]
Ⅱ 投資活動収支の部									
1 投資活動収入									
(1) 特定資産取崩収入	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
退職給与引当金取崩収入	0	0	0			0			0
記念事業積立預金取崩収入	0	0	0			0			0
投資活動収入計 (C)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 投資活動支出									
(1) 特定資産取得支出	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
退職給与引当預金支出	0	0	0			0			0
(2) 固定資産取得支出	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
① 什器備品購入支出	0	0	0			0			0
② 長期未払金返済支出	0	0	0			0			0
投資活動支出計 (D)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
投資活動収支差額(C)-(D)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
Ⅲ 予備費支出									
(1) 予備費支出 (E)	(0)	(0)	(0)			(0)			(0)
当期収支差額(A)+(C)-{(B)+(D)+(E)}	[12,827]	[△ 1,191]	[14,018]	[11,977]	[△ 922]	[12,899]	[221]	[221]	[0]
前期繰越収支差額	(12,369)	(13,448)	[△ 1,079]	(2,990)	(3,940)	[△ 950]	(966)	(951)	(15)
次期繰越収支差額	(25,196)	(12,257)	[12,939]	[14,967]	(3,018)	[11,949]	(1,187)	(1,172)	(15)

技術士倫理綱領

昭和 36 年 3 月 14 日理事会制定
平成 11 年 3 月 9 日理事会変更承認
平成 23 年 3 月 17 日理事会変更承認
2023 年 3 月 8 日理事会変更承認

【前文】

技術士は、科学技術の利用が社会や環境に重大な影響を与えることを十分に認識し、業務の履行を通して安全で持続可能な社会の実現など、公益の確保に貢献する。

技術士は、広く信頼を得てその使命を全うするため、本倫理綱領を遵守し、品位の向上と技術の研鑽に努め、多角的・国際的な視点に立ちつつ、公正・誠実を旨として自律的に行動する。

【本文】

(安全・健康・福利の優先)

1. 技術士は、公衆の安全、健康及び福利を最優先する。

(1) 技術士は、業務において、公衆の安全、健康及び福利を守ることを最優先に対処する。

(2) 技術士は、業務の履行が公衆の安全、健康や福利を損なう可能性がある場合には、適切にリスクを評価し、履行の妥当性を客観的に検証する。

(3) 技術士は、業務の履行により公衆の安全、健康や福利が損なわれると判断した場合には、関係者に代替案を提案し、適切な解決を図る。

(持続可能な社会の実現)

2. 技術士は、地球環境の保全等、将来世代にわたって持続可能な社会の実現に貢献する。

(1) 技術士は、持続可能な社会の実現に向けて解決すべき環境・経済・社会の諸課題に積極的に取り組む。

(2) 技術士は、業務の履行が環境・経済・社会に与える負の影響を可能な限り低減する。

(信用の保持)

3. 技術士は、品位の向上、信用の保持に努め、専門職にふさわしく行動する。

(1) 技術士は、技術士全体の信用や名誉を傷つけることのないよう、自覚して行動する。

(2) 技術士は、業務において、欺瞞的、恣意的な行為をしない。

(3) 技術士は、利害関係者との間で契約に基づく報酬以外の利益を授受しない。

(有能性の重視)

4. 技術士は、自分や協業者の力量が及ぶ範囲で確信の持てる業務に携わる。

(1) 技術士は、その名称を表示するときは、登録を受けた技術部門を明示する。

(2) 技術士は、いかなる業務でも、事前に必要な調査、学習、研究を行う。

(3) 技術士は、業務の履行に必要な場合、適切な力量を有する他の技術士や専門家の助力・協業を求める。

(真実性の確保)

5. 技術士は、報告、説明又は発表を、客観的で事実に基づいた情報を用いて行う。
- (1) 技術士は、雇用者又は依頼者に対して、業務の実施内容・結果を的確に説明する。
 - (2) 技術士は、論文、報告書、発表等で成果を報告する際に、捏造・改ざん・盗用や誇張した表現等をしない。
 - (3) 技術士は、技術的な問題の議論に際し、専門的な見識の範囲で適切に意見を表明する。

(公正かつ誠実な履行)

6. 技術士は、公正な分析と判断に基づき、託された業務を誠実に履行する。
- (1) 技術士は、履行している業務の目的、実施計画、進捗、想定される結果等について、適宜説明するとともに応分の責任をもつ。
 - (2) 技術士は、業務の履行に当たり、法令はもとより、契約事項、組織内規則を遵守する。
 - (3) 技術士は、業務の履行において予想される利益相反の事態については、回避に努めるとともに、関係者にその情報を開示、説明する。

(秘密情報の保護)

7. 技術士は、業務上知り得た秘密情報を適切に管理し、定められた範囲でのみ使用する。
- (1) 技術士は、業務上知り得た秘密情報を、漏洩や改ざん等が生じないように、適切に管理する。
 - (2) 技術士は、これらの秘密情報を法令及び契約に定められた範囲でのみ使用し、正当な理由なく開示又は転用しない。

(法令等の遵守)

8. 技術士は、業務に関わる国・地域の法令等を遵守し、文化を尊重する。
- (1) 技術士は、業務に関わる国・地域の法令や各種基準・規格、及び国際条約や議定書、国際規格等を遵守する。
 - (2) 技術士は、業務に関わる国・地域の社会慣行、生活様式、宗教等の文化を尊重する。

(相互の尊重)

9. 技術士は、業務上の関係者と相互に信頼し、相手の立場を尊重して協力する。
- (1) 技術士は、共に働く者の安全、健康及び人権を守り、多様性を尊重する。
 - (2) 技術士は、公正かつ自由な競争の維持に努める。
 - (3) 技術士は、他の技術士又は技術者の名誉を傷つけ、業務上の権利を侵害したり、業務を妨げたりしない。

(継続研鑽と人材育成)

10. 技術士は、専門分野の力量及び技術と社会が接する領域の知識を常に高めるとともに、人材育成に努める。
- (1) 技術士は、常に新しい情報に接し、専門分野に係る知識、及び資質能力を向上させる。
 - (2) 技術士は、専門分野以外の領域に対する理解を深め、専門分野の拡張、視野の拡大を図る。
 - (3) 技術士は、社会に貢献する技術者の育成に努める。